

動物ふぁいる No.63  
生き物ずかん平川動物公園  
ヒガシクロサイ

【平川動物公園 ☎261-2326 FAX261-2328】



ヒガシクロサイは、主にアフリカの森林やサバンナに生息し、木の葉や枝を食べて暮らしています。サイの中では小柄ですが、体長は約3m、体重は1t以上にもなります。視力が弱い代わりに嗅覚・聴覚が発達し、ふんや尿を使って自分の縄張りを主張します。近年、角を目的とした密猟によって生息数が激減し、現在は絶滅危惧種に指定されています。

当園のヒガシクロサイのサニーは、食欲旺盛でのんびり屋さん。毎日たくさんの餌を食べ、ごろんと横になったり、小屋の窓から外を眺めたりして過ごしています。そんなサニーがある日、寝室に戻る時間になっても帰ろうとせず、しきりに鼻を使い周囲の様子をうかがっていました。サニーが運動場にいる間に寝室の扉にペンキを塗ったので、その臭いが気になったようです。いつもの何十倍もかけてゆっくり扉に近づき、やっとのことで寝室に入っていました。大きな体に似合わず、意外と慎重なサニーをぜひご覧ください。

## ひろばサポーターがゆく 鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンター

【施設に関すること…鹿児島ユナイテッドFC事務局 ☎812-6370 FAX812-6371】  
【地域に関すること…喜入支所総務市民課 ☎345-1112 FAX345-2600】

## 練習場がオープン！注目のまち喜入を散策

“喜び入るまち”喜入に、鹿児島ユナイテッドFCの専用練習場「鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンター(UNITA)」がオープンしました。

ひろばサポーター  
松下

最寄りの喜入駅から練習場までの道は「喜入ユナイテッドロード」として、路上ペイントやのぼり旗、ユナイテッドカラーの横断歩道などが整備されています。

まちを散策して地域の商店で話を伺うと、喜入は以前と比べて周辺のお店の数が少なくなってきたそう。ユナイテッドをきっかけに、これまで交流のなかった地域の方々とのつながりや新しいお店が増えて、活気が戻ることを期待されていました。地元の子供たちにとっても、プロサッカー選手が地元で活動する環境は大きな刺激になると思います。



練習場の隣にあるマリニピア喜入の施設長は、「喜入が選手・スタッフ・サポーターにとっての『地元』になり、多くの方に大切に愛してもらえる地域になってほしい」とお話しされました。

喜入は歴史や自然が豊かで、とても温かいまちです。施設や地域の見どころをまとめた「立ち寄りMAP」も公開されているので、皆さんも喜入を散策して魅力を感じてみませんか？



立ち寄りMAP

かごしまフォロワー  
かごフォロ

## 鹿児島市ふるさと大使・料理人 上柿元 勝 さん

【広報課 ☎216-1133 FAX216-1134】



パリ修業時代の親交は今も続いている(ミシュランで数々の3つ星を獲得しているアラン・デュカス氏と)

1950年生まれ。鹿児島市(旧松元町)出身。1974年単身渡仏し、パリなどで修業。平成30年、長年職務に励んだ功績で黄綬褒章を受章。同年、市ふるさと大使に就任。

できませんが、帰ってきたら行きつけの焼き鳥・おでん屋へ。旬の料理で芋焼酎をぐいーと飲むと、体全体に鹿児島の元気を感じ、疲れがとれ、明日への活気が湧いてきます。鹿児島は魚や野菜も最高です。会話も弾み「なんちゅあならん」よか晩です。こんな食文化が元気な明日の「かごつま」を創り出すと思います。

鹿児島を出て53年になりますが、心はいつもふるさとを懐かしんでいます。鹿児島が大好きです。コロナを含めたいかなる困難にも「チェスト行けー」の精神で頑張りましょう！

(上柿元さんがプロデュースしたレシピを6面「食育クッキング特別編」に掲載しています。)

「できる人が、できることを、できる範囲でやればいい。」この思いが常にあります。現在、店を構える長崎市で、新型コロナの最前線で働く医療従事者に向け、敬意と感謝を込めた料理を贈り続けています。私の料理を食べて笑ってくれることが喜びです。

また、「ふるさと大使」になり、人のため、ふるさとのために何かを発揮したいと思い、市と一緒に「食育」にも取り組んでいます。

コロナ禍で、例年の親子料理教室や学校での授業はできませんが、今だからこそ、子どもたちに伝えたい「食」の大切さがたくさんあります。

食べることは生きることです。自分の「食」を支えてくれる親や自然の恵みに感謝してほしい。そのために、家の手伝いをして料理することを好きになってほしいし、食材の産地や旬、「しょっぱい・酸っぱい・苦い・甘い」という味覚を知ってほしいと思います。「ありがとう」を言いながら、30回しっかり噛んで食べると体の免疫力も上がり、コロナに負けないはずです。

今は、度々鹿児島へ帰ってくることは

「食」の大切さを子どもに伝える  
(令和元年 母校・松元小学校にて)

インタビューの詳細は、Instagram「カゴシマファン」などでチェックを